理事長エッセイ

鶏卵は，物価の優等生 or 高級品？

公益社団法人 日本畜産学会
理事長　菊地　和弘

今では考えられませんが，幼少期を過ごした東北地方の中核都市には，近所にたまご屋さんがありました．木箱にもみ殻が入っていて，箱ごとに大きさで分けられた赤だまや白だまのたまごが埋もれて売られていました．買い物に連れられて行った際に暇をもて余してたまごをほじくり返してみて，怒られた記憶があります．当然ながら卵殻には糞がくっついたままです．当時はそれが普通で，生でたまごかけごはんとして食べたりしました．よく，お腹をこわさなかったと思います．1 個いくらという単位で売られていたと思います．買い上げると，店の方（おばあちゃん）は新聞紙で丁寧？に包んでくれました．実際はおしゃべり好きだったので，本当に丁寧だったのか無駄に時間がかかっているだけだったのかはわかりませんが，持ち歩いて割れないような包み方で見た目もきれいでした．スーパーマーケットが出現してからたまごの包装は新聞紙からパックになりました（1）．まず紙で登場して（記憶は薄いです），その後プラスチックへと変遷しているようです．プラスチックのパックには歴史があります．「卵パックの開け口は当初ホッチキス止めであったが，のちに熱圧着式となり，1983 年に糸を引っ張って開ける構造となり，1994 年にテープを引っ張って開けるように改良された」（1）とあります，映像が走馬灯のように頭の中を流れますね．当然ながら，たまご屋さんはその後間もなく店じまいをしたのではと想像できます，実際は引っ越しをしたのでその後は確認できていませんが．

さて，鶏卵の価格の話です．元プロ野球選手でタレントの故板東英二さん（2）は，テレビ番組で球団から初めて給料をいただいた時に，ゆでたまごをいっぱい食べられて幸せだったとコメントしていました．その時代（1958 年入団）は鶏卵は高価だったそうです．前述のたまご屋さんでもたまごを高価なものとして取り扱っていました．一方でその後は大きな価格の変動もなく，物価の優等生と称賛されています．いつから高価なものから安値安定なものに変わったのでしょうか？鶏卵価格の変動についてはいろいろなサイトで確認できます．その一つとして 1950 年（昭和 25 年，以下は西暦のみで表示します）から 2020 年のデータがあります（3）．卵価は月によって変動するようです（年末にかけて高くなります．理由は調べていませんが，お菓子＝クリスマスケーキ用の需要，あるいは夏バテでたまごを産まなくなるなどが考えられます）．仮に私の誕生月の 5 月のデータを，かってながら 4 期にわけます．1）1950 年～1973 年（戦後復興～高度成長期），2）1974～1985 年（オイルショックとその直後），3）1986～1991 年（バブル経済），4）1992～2020 年（バブル経済以降）です．卵価は 1 kg あたり，それぞれ，172.0，244.9，184.2，176.6 円と，オイルショック期は高止まりですが，それ以外はほぼ同じです．これに，会社員の平均年収（4）を基に，4 期の年収の平均が，それぞれ 493.2，2786.7，3988.8，4383.2 千円（第 4 期は 2019 迄のデータ）と算出されます．鶏卵の価値を示すため，卵価/年収について少数点以下 0 が並ぶので ×10,000 の値を出すと，それぞれ，3.49，0.88，0.46，0.40 となり，戦後すぐはかなりの高級品で，高

度成長期を境に低価格となり，その後も徐々に下がって庶民のものになっていることが明確です．ちなみに，卵重はMサイズで58〜64g（5）で平均61gとすると，鶏卵1個あたりの価格は第4期では，10.8円，第1期は10.5円と同じですが，給与は8.9倍ですので単純計算で第1期は93.3円の価値となっていたことがわかります．鶏卵を安く安全に供給できるのは，育種改良や飼料の効率化などの弛まぬ努力がなされていることは申すまでもございません．その一端は後藤直樹先生のミニレビュー（6）でもご確認いただけます．今回は触れませんが，最近になり鶏インフルエンザ感染の頻発や輸入飼料の高騰により鶏卵価格が上昇し社会問題となっております．関係の皆様方には，物価の優等生を維持するためさらなるご努力をお願いいたします．

ちなみに，たまごには「卵」と「玉子」の漢字表記があります．その使い分けですが，「卵」は孵化して育つ生き物のたまご，「玉子」は食用のもの（一般的には鶏のたまご）を指し，さらに鶏卵に限れば，生の状態は「卵」，調理されたものは「玉子」とのことです（7）．卵から玉子焼きができるのですね．私は，日頃，ブタの卵（卵母細胞）を扱っているので，パソコンの文字変換では「卵焼き」となることが多いです．いままでそのまま使っていました．お恥ずかしい限りです．

文献

（1）卵パック，ウィキペディア．
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%B5%E3%83%91%E3%83%83%E3%82%AF

（2）板東英二，ウィキペディア．
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BF%E6%9D%B1%E8%8B%B1%E4%BA%8C

（3）昭和25年（1950年）以降の卵価の推移，JA全農たまご株式会社．
https://keimei.ne.jp/wp/wp-content/uploads/2020/11/d7f7d4d973b6f2a5020917d74ce26f3c.pdf

（4）戦後70年…会社員の平均年収の推移，GGO編集部．
https://gentosha-go.com/articles/-/35815#google_vignette

（5）卵重，畜産用語辞典，日本畜産学会編．
https://animalwiki.yokendo.com/wiki/%E5%8D%B5%E9%87%8D

（6）後藤直樹．採卵鶏産業における育種改良の変化，公益社団法人日本畜産学会創立100周年記念誌（日本畜産学会報第95巻記念号），pp. 330-337.

（7）たまごのギモン，JA全農たまご株式会社．
https://www.jz-tamago.co.jp/customer/atoz/

【引き続きのお願い】

学会HPのバナーに「畜産用語辞典」があります．かつては冊子版として養賢堂から刊行されていたこの辞典が，現在は最新の内容を取り込みつつ，Wikipedia形式で更新されています．今回は文献（5）として引用しています．畜産学の最新情報を簡単に調べられるだけでなく，どなたでも無料でご利用いただけるのが大きな特長です．これは公益法人としての学会が取り組む社会貢献活動の一環でもあります．他の検索サイトに行く前に，学会HPのバナーをクリック，もしくは右のQRコードからご利用ください．